



The Japan Journal 2014年11月号

記事概要

記事は、studio-Lの山崎亮さんのインタビューから始まり、佐木島と私たちを結びつけた経緯が語られます。「広島県から地域活性化案件の依頼がstudio-Lにありました。瀬戸内海には多くの島があるのですが、佐木島はその中でも若い人の少ない、高齢化が進んだ島のひとつです」。「(受講生は)東京で暮らしていますが、多くの生徒はいつかは自分たちのふるさとに戻りたいという思いがあります」。「佐木島は東京からだとなんかの距離がありますが、(中略)長く続く新たな取り組みを始めたいと思いました」。

*

そして「ふるさとという最前線」という講座の受講生グループから生まれた、フォトコンテストなどいくつかのプロジェクトが記され、トライアスロン大会に合わせて行われた「佐木島からのポストカード」に携わった松村亮平さんの声が載せられています。

松村さんは準備のため3回島に訪れましたが、離れた場所からの準備はたいへんだったとしながらも、「この企画を行うことで、日本の地域社会はなんて素晴らしいのだろうと実感出来ましたし、人々の暖かさを感じられました」と語っています。

*

それを受け、島で受け入れてくれた方たちのひとりである、ボランティアガイドの引地典子さんご自身の体験が語られます。「今の世の中では、交通も含めてなんでも便利であることばかりが重要視されています。でも私たちは人生の別の側面を楽しめるような人にも是非島に来てほしいと思います」という言葉は印象的です。

山崎さんも冒頭のインタビューでこのように語っています。

「日本の人口が減っていく中で、これ以上建物や公園を作ることは現実的ではない。でも、もしそこに住む人々の生活に根ざした何かが出来れば、どこでもコミュニティ・デザインは行うことが出来ます」。

「昨今の風潮として、行政や官僚機構に依存し過ぎるきらいがあります。私たちはそんな風潮を改め、自分たちの生活を自分たちで成し遂げていくように変えていく必要があると思います。そしてそうするほうが生活はずっと面白いはずです」。

佐木島での、ふるさとという最前線6期の活動が、『The Japan Journal(ザ・ジャパン・ジャーナル)』という日本のトレンドを海外に紹介する雑誌に取り上げられました。

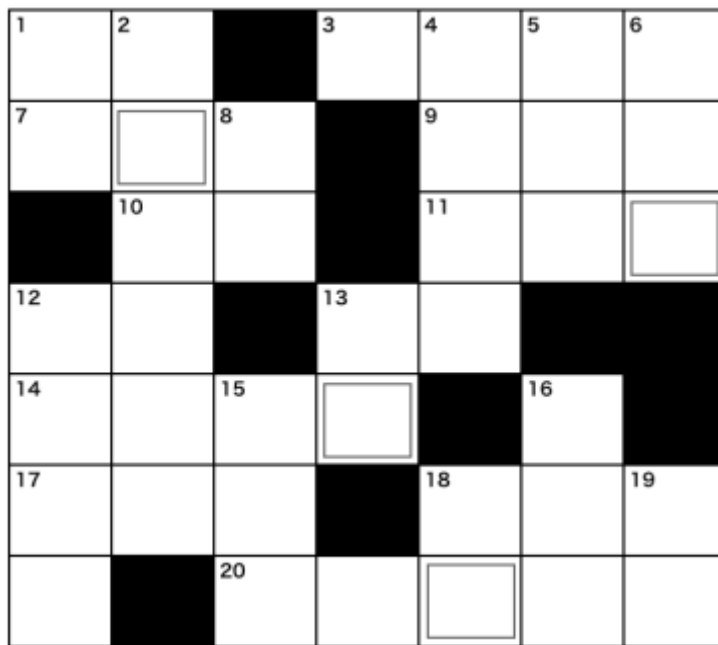
この雑誌は、内閣府が発行し、おもに海外の大学や図書館、JICAなどが定期購読しているもの。

昨年十一月号に、英文で書かれたこの記事は、来日して十七年になる、英国人フリージャーナリストのギャビン・ブレアさんが取材・執筆したもので、ブレアさんが、知人の受講生、月田尚子さんとの会話の中から、佐木島について関心を持ち、月田さんを通してstudio-Lの協力が得られ、佐木島、受講生の取材が行われました。

掲載記事の日本語版が受講生の足立雅史さんの翻訳、同じく奥谷康裕さんのデザインによって作成されました。

国内での入手が限られていることから、日本語記事の概要を掲載します。

取り組みの様子、海外向け雑誌に掲載



製 謹

クロスワードパズル

双鷺洲篇

双鷺洲にちなんだクロスワードパズルを作りました。縦横のカギにしたがってマス目に言葉を入れ下さい。二重マスの文字を並べて、ヒントにふさわしい言葉を作ります。それが答えです。ご覧下さい。ヒント⇒双鷺洲は○○○○愛読書。

ヨコのカギ

- 1 ヨコのカギなのに○○
- 3 お地蔵さんは○○〇〇さん
- 7 tonight は日本語で
- 9 12月に美味しい
- 10 骨を断つには何を切らせる?
- 11 母はマリ、娘はえみり
- 12 佐木島を舞台にした池澤夏樹さんの小説「アトミック・ボックス」で主人公の父の養殖していた魚は?
- 13 お返事は?
- 14 英語はひらがなでは書きません
- 17 おしりのリングが特徴的
- 18 島で人気のグラウンド○○○
- 20 千本桜はどこで

- 1 三原市の名物○○料理
- 2 耕して
- 4 佐木島の最高峰は何山?
- 5 明治○○○は近代日本の出発点
- 6 二日酔いに効く貝類
- 8 「舟をたでる」とは舟底についた藻やカキ殻、虫などを除くため、どうすること?
- 12 須ノ上地区のポニーの名前は何君?
- 13 除虫菊は○○○の一種
- 15 つま先の反対
- 16 島生産の人気ナンバーワンの柑橘
- 18 背中がかゆいときは「ま○○手」を島から島になりに行く?

タテのカギ

はがきに「クロスワードパズルの答え」と書いて解答を記し、あなたの郵便番号、住所、氏名、そして、この欄へのご意見、ご感想、取り上げてもらいたい記事を書いて、〒259-0155 神奈川県足柄上郡中井町松本 1026-17 戸村裕司へお送り下さい。下記のメールでも受け付けます。

応募方法

応募は一人葉書1枚で、1月15日必着でお願いします。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。＜賞品＞3人の方に「島★彩発見! フォトコンテスト in さぎしま」から生まれたフォトブックを正解者の中から抽選で差し上げます。ふるってご応募下さい。お楽しみに。

この欄のお問い合わせ、ご意見ご感想は、東京藝術学舎ふるさとという最前線第6期生、戸村裕司(080-8050-7535、tomurayuji@mac.com)まで是非どうぞ